

## 2021 年度実績の概要と 2022 年度展望

自治会を支援する会・西須磨

「2021・2022 年度活動に向けての企画検討書」(2021/04/11)について、2021 年度実績の概要を整理するとともに、2022 年度を展望します。

2022年3月		2021・2022年度活動に向けての企画検討書(2021/04/11)	
実績	展望		
2021年度	2022年度		
		1.	ホームページとガイドンスをブラッシュアップする
		1.1.	ホームページをブラッシュアップする
◎	◎	1.1.1.	投稿を継続する
		1.1.2.	ホームページを広く閲覧してもらう。閲覧状況を把握する
○	～	①	検索エンジンに検索してもらえるようにする
○	○	②	SEO (Search Engine Optimization) 対策をする
○	～	③	アクセスツールを設置する (閲覧数を把握する)
～	～	1.1.3.	投稿を一本化する (1.1.2終了後)
○	○	1.1.4.	内容を充実する
～	○	1.1.5.	他自治会のホームページを開設する
		1.2.	ガイドンスをブラッシュアップする
～	～	1.2.1.	ガイドンスを使いやすくする
～	～	1.2.2.	ガイドンスの内容を充実させる
△	◎	2.	ICTモデルの導入を検討する
○	○	2.1.	「タダカヨ」モデルから学ぶ
○	○	2.2.	「結ネット」モデルから学ぶ
○	○	2.3.	その他のモデルも検討する
○	◎	2.4.	情報伝達をプル型からプッシュ型に拡大する
		3.	トータルシステムを整備する
～	～	3.1.	HSIを導入する
		3.1.1.	HSIとは
		3.1.2.	HSIの一形態
～	△	3.2.	支援メニューを多様化する
		①	自治会ICT-SP (ICTサポート) を実施する
		②	地域資源KD (協業の場) を形成する
		③	支援窓口紹介を機能させる
		④	総合窓口を設置する
		4.	実施活動を展開する
		4.1.	自治会を支援する
◎	○	4.1.1.	●●町●丁目自治会を支援する
～	○	4.1.2.	西須磨のその他の自治会に接触し、支援する
		4.2.	認知症になっても住めるまちの基盤をつくる
○	○	4.2.1.	自治会としての取り組み方を検討する
～	△	4.2.2.	認知症高齢者声掛け訓練を実施する
～	○	4.3.	ホームページ、ガイドンスの活用を西須磨で広げる
		4.4.	独立組織としての基盤を整備する
○	○	①	「顧客」を増やす
～	○	②	活動を支援してくれる人を確保する
△	○	③	助成終了後も活動を継続していくための経済的な裏付けをつくる

※ 【展望：情報通信技術に支援された関係構築 ～ 現実と仮想と交雑】を最後に示します。

1. ホームページとガイドンスをブラッシュアップする

実績	展望	2021・2022年度活動に向けての企画検討書 (2021/04/11)	
2021年度	2022年度		
		1.	ホームページとガイドンスをブラッシュアップする
		1.1.	ホームページをブラッシュアップする
◎	◎	1.1.1.	投稿を継続する
		1.1.2.	ホームページを広く閲覧してもらう。閲覧状況を把握する
○	～	①	検索エンジンに検索してもらえるようにする
○	○	②	SEO (Search Engine Optimization) 対策をする
○	～	③	アクセスツールを設置する (閲覧数を把握する)
～	～	1.1.3.	投稿を一本化する (1.1.2終了後)
○	○	1.1.4.	内容を充実する
～	○	1.1.5.	他自治会のホームページを開設する
		1.2.	ガイドンスをブラッシュアップする
～	～	1.2.1.	ガイドンスを使いやすくする
～	～	1.2.2.	ガイドンスの内容を充実させる

	実績(2021年度)	展望(2020年度)
1.1. ホームページをブラッシュアップする	<p>2021/4/1～2022/3/22 の 356 日の期間で、623 件発信しました(1.75 件/日)。別途資料(*1)があります</p> <p>「検索エンジンに検索してもらえるようにする」「SEO対策をする」「アクセスツールを設置する」は、進みました。</p> <p>「投稿を一本化する」については、二つのサイトを見る人が違うようなので、併用を継続しています。</p> <p>「内容を充実する」については、徐々に改善しています。</p> <p>「他自治会のホームページを開設する」は、進んでいません。</p>	<p>引き続き、2 件/1 日を目安として、投稿を続ける予定です。</p> <p>検索エンジン対策などは、一通り終わっています。SEOについては、さらに改善できないか、検討します。</p> <p>「投稿を一本化する」については、左記理由により、当面見合わせる予定です。</p> <p>「内容を充実する」は、継続する予定です。</p> <p>「他自治会のホームページを開設する」は、●●町●丁目自治会等に勧めてみます。</p>
1.2. ガイドンスをブラッシュアップする	進んでいません。	自治会により事情が違い、ガイドンスを共有利用するのは難しそうなので、重点を置かない予定です。

2. ICTモデルの導入を検討する

実績	展望	2021・2022年度活動に向けての企画検討書 (2021/04/11)	
2021年度	2022年度		
△	◎	2.	ICTモデルの導入を検討する
○	○	2.1.	「タダカヨ」モデルから学ぶ
○	○	2.2.	「結ネット」モデルから学ぶ
○	○	2.3.	その他のモデルも検討する
○	◎	2.4.	情報伝達をプル型からプッシュ型に拡大する

	実績(2021年度)	展望(2020年度)
ICTモデルの導入を検討する	<p>●●町●丁目自治会への支援の負担が大き く、検討が遅れました。そのため、「アドバイザー謝礼金」「打合せ交通費」「ボランティア交通費」「委託費」は、使うに及びませんでした。</p> <p>検討は進みました。<u>別途資料(*2)</u>があります</p>	<p>●●町●丁目自治会への支援の負担を減らして、本件を加速する予定です。</p> <p>特に「情報伝達をプル型からプッシュ型に拡大する」に注力したいと思っています。「結ネット」などのシステムを有料で買って使うのではなく、手作りで基本的な機能を果たせないか、探ってみます。もちろん、高度なことはできません。ツールとしては、LINE WORKS や、ノーコードアプリが役立つのではないかと考えています。いずれもユーザーがスマホを使っていることを前提として計画します。</p> <p>また、当初計画にはないが、ICTによる情報発信とリアルな交流とを融合するシステムを作れないか検討します。</p> <p>なお、ICT技術の専門家ではないので、ボランティア感覚で指導してくれる技術者を探します。ただ、完全なボランティアではなく、助成金から若干、指導料を支払いたいと思っています。</p>

### 3. トータルシステムを整備する

実績	展望	2021・2022年度活動に向けての企画検討書 (2021/04/11)	
2021年度	2022年度		
～	～	3.	トータルシステムを整備する
		3.1.	HSIを導入する
		3.1.1.	HSIとは
		3.1.2.	HSIの一形態
～	△	3.2.	支援メニューを多様化する
		①	自治会ICT-SP(ICTサポート)を実施する
		②	地域資源KD(協業の場)を形成する
		③	支援窓口紹介を機能させる
		④	総合窓口を設置する

	実績(2021年度)	展望(2020年度)
3.1. HSIを導入する	進んでいません。	引き続き、重点をおかない予定です。
3.2. 支援メニューを多様化する	進んでいません。	メニューを揃えて使う人を探すのではなく、使いたい人が現れたら、その人に役立つメニューを開発したいと思っています。積極的には動かない予定です。

4. 実施活動を展開する

実績	展望	2021・2022年度活動に向けての企画検討書 (2021/04/11)	
2021年度	2022年度		
		4.	実施活動を展開する
		4.1.	自治会を支援する
◎	○	4.1.1.	●●町●丁目自治会を支援する
～	○	4.1.2.	西須磨のその他の自治会に接触し、支援する
		4.2.	認知症になっても住めるまちの基盤をつくる
○	○	4.2.1.	自治会としての取り組み方を検討する
～	△	4.2.2.	認知症高齢者声掛け訓練を実施する
～	○	4.3.	ホームページ、ガイダンスの活用を西須磨で広げる
		4.4.	独立組織としての基盤を整備する
○	○	①	「顧客」を増やす
～	○	②	活動を支援してくれる人を確保する
△	○	③	助成終了後も活動を継続していくための経済的な裏付けをつくる

	実績(2021年度)	展望(2020年度)
4.1. 自治会を支援する	●●町●丁目自治会支援を重点的な行い、新体制で立ち上がる見込みとなりました。 <u>別途資料(*3)</u> があります	関守町2丁目自治会支援を継続します。●●町●丁目自治会支援も継続しますが、負担が大幅に減る見込みです。 西須磨以外の須磨区からの支援要請があれば応じますが、●●町●4丁目支援のようにできません。 須磨区以外の神戸市からの支援要請は、原則として資料提供及び質問へのメール回答、場合によれば面談(Zoomも含む)までに留めたいと思っています。
4.2. 認知症になっても住めるまちの基盤をつくる	西須磨あんしんすこやかセンターと一度打ち合わせましたが、コロナもあり進んでいません。	暮らしやすいまちにするため、認知症だけでなく、防災(2021年度に防災教室を企画したがコロナで中止)やヤングケアラー(困難な状況にいる人をいかに発見するか)まで視野に入れたいと思っています。 オンラインもよいが、リアルなつながりを重視したいと思っていますが、コロナ禍もあり、慎重に進めます。
4.3. ホームページ、ガイダンスの活用を西須磨で広げる	進みませんでした。	ガイダンスは、他の自治会と共有するのが難しそうなので、様子を見ます。ホームページは、●●町●丁目に働きかけるとともに、西須磨防災福祉コミュニティにも勧めてみます。
4.4. 独立組織としての基盤を整備する	●●町●丁目自治会との関係は、深いものになりました。	関守町2丁目自治会、●●町●丁目自治会からは、「委託金」を期待しています。 サービスの有料提供は厳しそうですが、可能性は追究したいと思っています。 この基盤確立の成否で、2023年度以降も会を継続するか否か、年度末に決める予定です。

## 【展望：情報通信技術に支援された関係構築 ～ 現実と仮想と交雑】

詳細資料：[別途資料\(\\*4\)があります](#)

### 情報通信技術に支援された関係構築 ～ 現実と仮想と交雑

2022年度は、情報通信技術(ICT：Information and Communication Technology)を使い関係構築することを主テーマとして、展開を図っていきたいと考えています。

地域力を強化する基本は、地域のつながりを強化することにあります。自治会はその要にあると考えます。一方、その実態は住民参加にあり、住民がつながるために、自治会のつながりが重要な役割を担います。

#### [関係]

関係としては、核となる関係と拡大された関係があります。核となる関係は、自治会とその住民との関係、自治会内の住民間の関係、近隣自治会との自治会間の関係、自治会の枠を超えたもう少し広い地域（例えば、小学校区）での住民間の関係の、四つがあります。

拡大された関係とは、地域組織や行政も含めた関係です。地域組織とは、防災福祉コミュニティ、ふれあいのまちづくり協議会などですが、地域に根差したNPO法人を含みます。行政とは、区役所、市役所などですが、社会福祉協議会、あんしんすこやかセンターなどを含みます。

すべての関係を強化しようとしているわけではありません。例えば、導入する情報通信技術が関係強化に役立ちやすそうな領域とそうでない領域があります。また、地域の事情により、入りやすい地域とそうでない地域があります。すべての関係を強化するのではなく、また、初めから特定の関係に限定することなく、活動を進める中でどの関係の強化を中心にするのがよいかを見定め、その強化に役立つような取り組みを行いたいと思っています。そのために、候補となる関係性を、一通り拾い出しているものです。

#### [現実関係、仮想関係、交雑関係]

昨今、情報通信技術(ICT)の目覚ましい進歩に伴い、従来になかった関係性が広がってきています。すなわち、これまでであった現実(real)関係に、新たに、情報通信技術(ICT)を駆使した仮想(Virtual)関係があらわれ、社会の中で重要な役割を果たし始めています。しかし、仮想関係が現実関係にとって替わるわけではありません。例えば、仮想関係でつながった人たちが、オフ会（インターネット上で知り合った友人同士が実際に外で会う）を開催しています。また、現実(real)関係であるイベントに若者の参加を促すとき、SNS（Social Networking Service:登録された利用者同士が交流できるWebサイトの会員制サービス）など情報通信技術(ICT)が強力な手段になっています。

すなわち、現実関係と仮想関係は、相反するものではなく、互いに補完するものです。そして、それらが重なり合うところに、交雑(Hybrid)関係が生まれます。

#### [現実関係]

現実関係においては、夏祭りや餅つき大会などの伝統的行事に加え、最近では居場所など、つどい型が増えています。一方、この活動では、テーマ型を展開したいと考えていま

す。例えば、認知症の人を見かけたら声をかける、災害が起こったときは声をかけ助け合う、そのような関係性が強化されるように、現実関係において働きかけたいと思っています。このように目的をもったつながりを、ここではテーマ型と呼び、重視していきます。

#### [仮想関係]

仮想関係は、情報通信技術(ICT)で形成します。本活動では、2021年度にホームページを立ち上げ、西須磨地域で暮らしている住民に役立つような情報を、一日2件を目途にして、配信し続けています(ブログ)。内容は、自治会関連の情報、コロナ関連情報、イベント(行事)の紹介、特に子育て世代向け情報、地域のお店情報などです。

技術上の今後の方向としては、出来合いのシステム(例えば、結ネット)を導入するのではなく、手作りの小さなシステムを試作し、自治会におけるICTの有効な使い方を探っていきたいと考えています。

若者との関係性を重視したく、パソコンというより、スマホで使いやすいアプリを考えており、ノーコードアプリを評価したいと考えています。特に、プッシュ型(利用者が能動的な操作や行動を行わずに、提供する側から自動的に行なわれるタイプの技術やサービス)の実現を図りたいと思っています。さらに、ラインワークスもうまく使えないか、検討してみます。

また、SNS((Social Networking Service: ソーシャルネットワーキングサービス)の中でも、ヤフー知恵袋のような質問 SNS に注目し、自治会知恵袋のようなものができるか、検討します。

#### [交雑関係]

先に述べたように、現実関係と仮想関係が互いに相乗効果を築くことのできる、交雑関係に注目して、二方向から働きかける可能性を探ってみます。一つは、テーマ型現実関係を情報通信技術で補強していく方向、もう一つは、仮想関係から現実関係を構築していく方向です。

#### 【添付資料】

別途資料(\*1) … 計画「1.1.1. 投稿を継続する」の活動報告

ホームページへの投稿の継続

別途資料(\*2) … 計画「2. ICTモデルの導入を検討する」の活動報告

ICTモデル導入の検討

別途資料(\*3) … 計画「4.1.1. ●●町●丁目自治会を支援する」の活動報告

「継続できる自治会について考える会」(2021/03/16)資料

原稿(配布資料)

資料集(資料0.~資料7.)

別途資料(\*4) … 2022年度向け 構想

情報通信技術に支援された関係構築 ~ 現実と仮想と交雑

以上